

# 大分県長期漁海況予報

〔平成 27(2015)年 1 月～6 月までの海水温・漁模様の見通し〕



大分県農林水産研究指導センター水産研究部  
879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦 194-6

Phone0972-32-2155 Fax.0972-32-2156 <http://www.mfs.pref.oita.jp>

## 海況経過<平成 26 年 8～12 月>

### ■黒潮

黒潮は 7 月下旬、都井岬沖では離岸傾向が解消し、以降は接岸傾向となった。7 月以降、足摺岬～潮岬沖では接岸傾向で推移した。11 月下旬、都井岬沖で小蛇行が形成され「著しく離岸」となった。

### ■水温

豊後水道の水温(0～75m層)は、8月は調査船ドックのため欠測、9月は「やや低め」、10月は「平年並み」、11月は「やや高め」、12月は「平年並み」で推移しました(図1)。

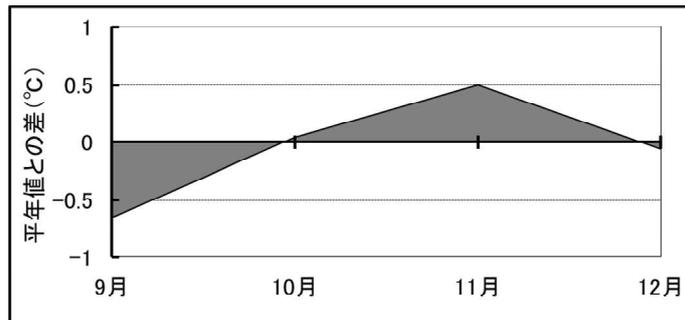


図1 豊後水道における水温の平年値との差(0～75m層の平均値)

### ■塩分

豊後水道の塩分(0～75m層)は、8月は調査船ドックのため欠測、9月は「やや高め」、10月・11月は「平年並み」、12月は「高め」で推移しました(図2)。

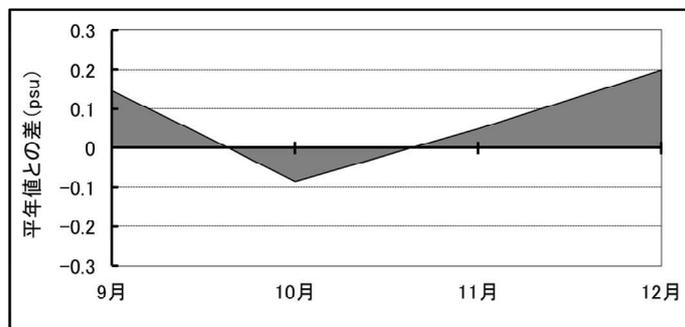


図2 豊後水道における塩分の平年値との差(0～75m層の平均値)

## 今後の海況の見通し＜平成 27 年 1～6 月＞

### ■黒潮

- ・都井岬沖では、1 月までは大きく離岸し、2 月以降は小蛇行の東進により接岸していくでしょう。
- ・足摺岬～潮岬沖では、2 月まで小蛇行の東進により一時的に離岸するでしょう。
- ・足摺岬～室戸岬沖では、3 月以降は接岸となるでしょう。
- ・潮岬沖では、3 月は離岸し、4 月以降は接岸となるでしょう。

### ■沿岸水温

「平年並み」～「高め」で推移するでしょう。

### ■予測の説明と根拠

- ・黒潮流路予測は平成 26 年度第 2 回太平洋いわし類・マアジ・さば類等長期漁海況予報(中央水産研究所及び関係都道府県:2014)を参考にしました。
- ・沿岸水温は気温の影響を強く受けると考えられます。福岡管区気象台の「九州北部地方3ヶ月予報」では「低め20%、平年並み40%、高め40%」と予測していることから沿岸水温は平年並みから高めで推移すると思われる。

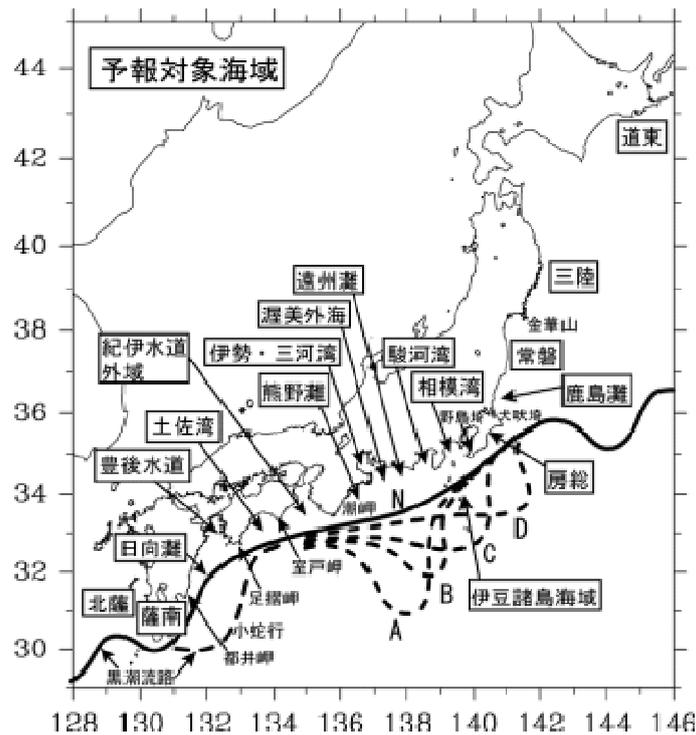


図 3 黒潮流型の分類

※上図は平成 26 年度第 2 回太平洋いわし類・マアジ・さば類等長期漁海況予報(水産庁プレスリリース資料)より引用

## ■マイワシ

### □2014年7～11月の漁況経過

2014年7～11月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるマイワシの漁獲量は7月に1,469トン、8月に236トン、9月に97トン、10月・11月は0トンの計1,802トンでした。前年比812%、1986～2013年の平均値(以下「平年」)の比97%と、前年を大きく上まわり平年並みの漁獲量となりました。漁獲の主体は、被鱗体長<sup>(用語解説①)</sup>10～15cm前後(いずれも0歳魚:2014年生まれ)でした。

なお、近隣海域<sup>(用語解説②)</sup>では宮崎県は前年の154%、愛媛県は前年の128,653%(ただし前年の漁獲量は数十キロ)、高知県では前年の78%の漁獲量となっています(愛媛県のみ2014年8～11月、その他は2014年7～11月の漁獲量合計値)。

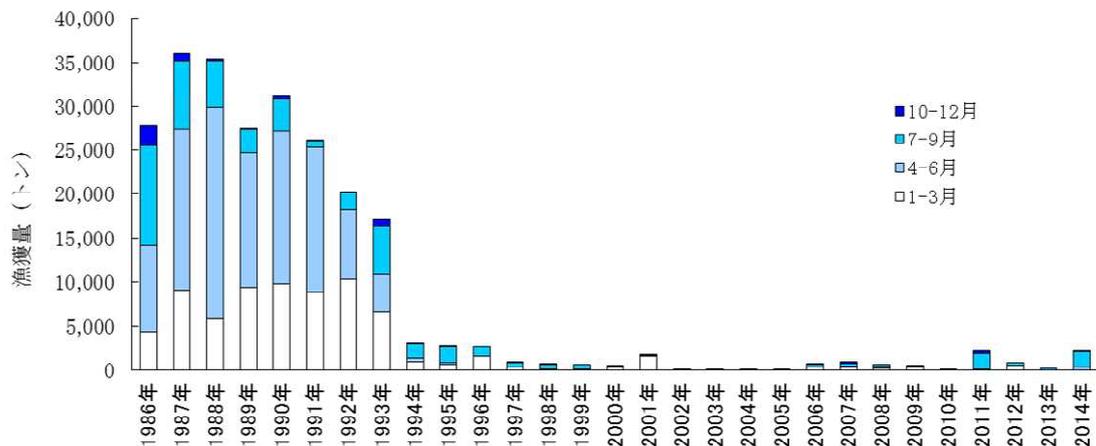


図4 マイワシのまき網における漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

## 今後の見通し<2015年1～6月>



### 来遊水準:

豊後水道への来遊量は、前年を上回るでしょう。(2014年1-6月:294トン)

### 漁獲対象年級群及び体長:

1～3月は被鱗体長20cm前後の1～2歳魚(2013・2014年生まれ)が主体となり、4～6月は被鱗体長7～12cm前後の0歳魚(2015年生まれ)主体に1歳魚が混じるでしょう。

### 【説明】

2014年4～11月のマイワシ漁獲量は2,072トンで被鱗体長10～15cm前後の0歳魚を主体に前年比929%、平年比35%と前年を大きく上回り、平年を下回りました。そのため2014年1～3月の2014年生まれ(明け1歳魚)の来遊は、前年に比べ期待がもてます。しかし平年と比較して漁獲量は依然として低水準であるため、予測は低水準であるが前年を上回るとしました。

## ■カタクチイワシ(成魚)

### □2014年7～11月の漁況経過

2014年7～11月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるカタクチイワシの漁獲量は7月に907トン、8月に351トン、9月に466トン、10月に248トン、11月に115トンの計2,087トンでした。前年比53%、平年比149%と、前年を下回り平年を上回る漁獲量となりました。7月は被鱗体長9cm前後の2014年生まれ(0歳魚)が主体となり、8月以降は被鱗体長9cm前後の2014年生まれ(0歳魚)主体に2013年生まれ(1歳魚)が混じりました。

なお、宮崎県では前年の54%、愛媛県では前年の58%、高知県では前年の106%の漁獲量となっています。

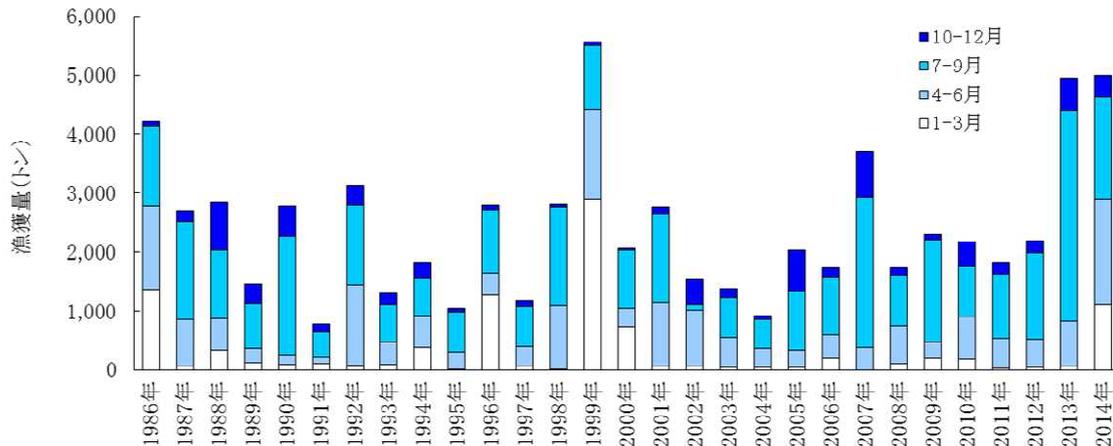


図5 カタクチイワシのまき網における漁獲量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

## 今後の見通し<2015年1～6月>



### 来遊水準:

豊後水道への来遊量は、前年並み～下回るでしょう。(2014年1～6月:2,899トン)

### 漁獲対象年級群及び体長:

1～6月は1歳魚が漁獲の主体となり、4月以降0歳魚が混じるでしょう。

### 【説明】

例年、1～6月は1歳魚が漁獲の主体で4月以降0歳魚がわずかに混じります。例年9～11月は0歳魚が主体ですが2014年9～11月の漁獲量は829トンで前年比119%、平年比185%であり、前年並みで平年を上回っています。しかし2014年生まれの資源水準は低水準とされていることを加味すると(平成26年度第2回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報より)、2015年1～6月に主体になるであろう2014年生まれ(明け1歳魚)の来遊は前年並み～下回ると考えられます。

## ■ウルメイワシ

### □2014年7～11月の漁況経過

2014年7～11月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるウルメイワシの漁獲量は7月に213トン、8月に890トン、9月に447トン、10月に342トン、11月に0トンの計1,892トンでした。前年比83%、平年比219%と、前年並みで平年を大きく上回る漁となりました。漁獲の主体は、7～13cm前後の0歳魚(2014年生まれ)でした。

なお、宮崎県では前年の48%、愛媛県では前年の76%、高知県では前年の257%の漁獲量となっています。

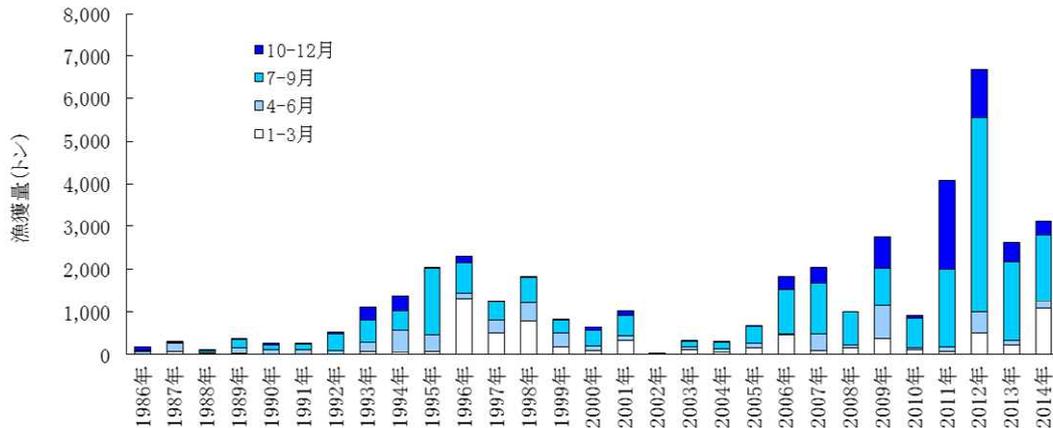


図6 ウルメイワシのまき網における漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

## 今後の見通し<2015年1～6月>



### 来遊水準:

豊後水道への来遊量は前年並み～下回るでしょう。(2014年1-6月:1,244トン)

### 漁獲対象年級群及び体長:

1～3月は被鱗体長20cm前後の1歳魚が主体となり、4～6月は被鱗体長15cm未満の0歳魚が漁獲の主体となるでしょう。

### 【説明】

1～3月に漁獲の主体となる2014年生まれ(明け1歳魚)は、2014年生まれが漁獲の主体だった2014年4～11月のまき網漁獲量が2,048トンと前年並みで(前年比:85%)、平年を上回り(平年比:193%)、近年の傾向同様高い漁獲であったことから予測期間中の来遊に期待が持てます。しかし2014年1～3月の漁獲量は1,087トンで平年比510%であり、ここ30年のうちでは2番目に高く、この漁獲水準まで達するかは不確実性が高いです。したがって予測は前年並み～下回るとしました。

## ■マアジ

### □2014年7～11月の漁況経過

2014年7～11月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるマアジの漁獲量は7月に5トン、8月に65トン、9月に15トン、10月に122トン、11月に102トンの計310トンで、前年比68%、平年比20%と前年・平年を下回る漁となりました。8～9月の漁獲は尾叉長<sup>(用語解説③)</sup>12～13cm前後の0歳魚(2014年生まれ)主体に尾叉長18～22cm前後の1歳魚(2013年生まれ)が混じりました。10～11月は尾叉長13～17cm前後の0歳魚(2014年生まれ)が主体でした。

なお、宮崎県では前年の18%、愛媛県では前年の43%、高知県では銘柄「アジ」が前年の44%で銘柄「ゼンゴ」が前年の58%の漁獲量となっています。

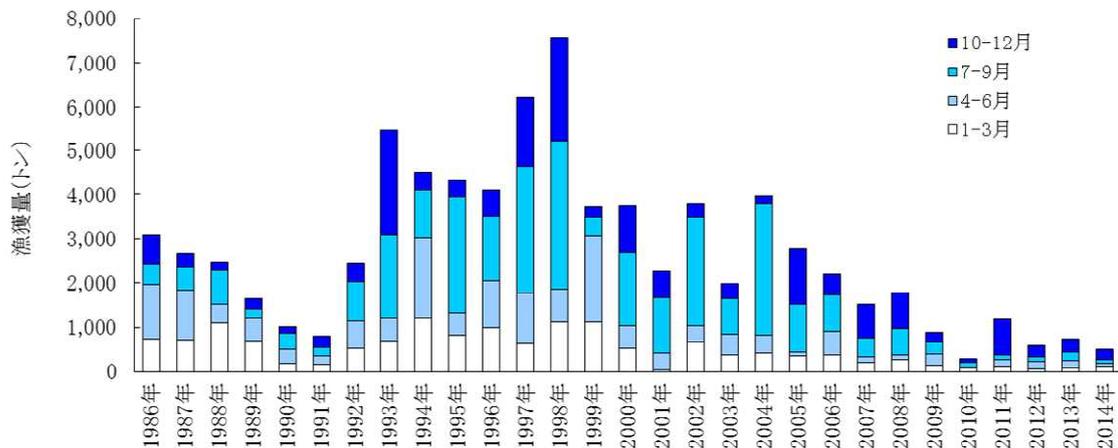


図8 マアジのまき網における漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

## 今後の見通し<2015年1～6月>



### 来遊水準:

豊後水道への来遊量は前年並み～下回るでしょう。(2014年1-6月:185トン)

### 漁獲対象年級群及び体長:

1歳魚(2014年生まれ)が漁獲の主体となる。

### 【説明】

1～6月の漁獲主体となる2014年生まれ(明け1歳魚)は、2014年生まれが漁獲の主体だった2014年8～11月のまき網漁獲量が前年同期間と比較すると112トン減少した(前年比73%)ことから来遊量は前年を下回ると考えられます。しかし2014年1～6月の漁獲量は185トンで、過去28年間では2番目に低い漁獲量であり、これを更に下回る水準になるとは考えにくいことから、総合して予測を前年並み～下回るとしました。

## ■さば類

### □2014年7～11月の漁況経過

2014年7～11月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるサバ類の漁獲量は7月に167トン、8月に33トン、9月に41トン、10月に533トン、11月に333トンの計1,107トンでした。前年比728%、平年比37%と前年を大きく上回り平年を下回る漁でした。漁獲の主体はゴマサバで、サイズは尾叉長が25～30cm前後が主体でした。

なお、宮崎県では前年の290%、愛媛県では前年の202%、高知県では前年の171%の漁獲量となっています。

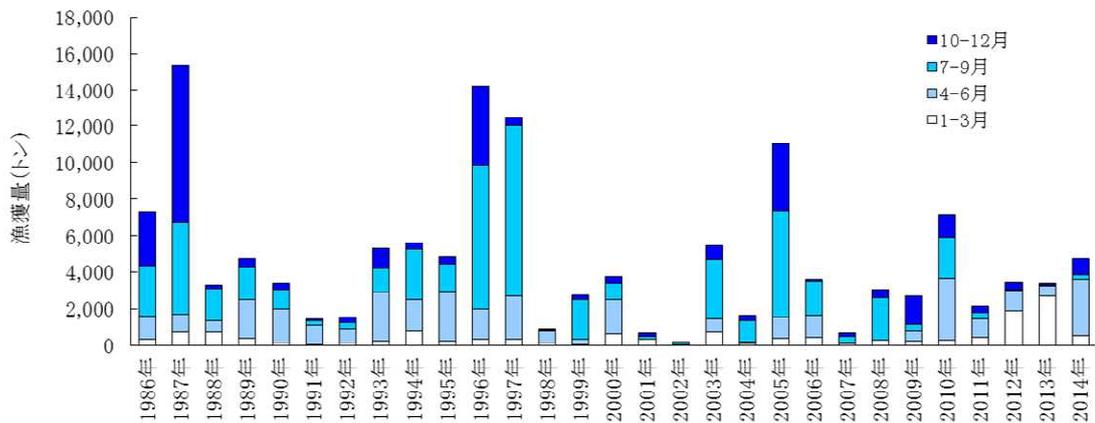


図9 さば類(マサバ・ゴマサバ)のまき網における漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

## 今後の見通し<2015年1～6月>



### 来遊水準:

豊後水道への来遊量は、前年並み～上回るでしょう。(2014年1-6月:3,621トン)

### 漁獲対象年級群及び体長:

近年の調査結果によれば、1～3月はゴマサバ2歳魚が漁獲の主体で3歳魚以上の大型のゴマサバが混じり、4月以降に尾叉長が25cm未満の0～1歳魚が加入し、漁獲の主体が移行します。

### 【説明】

例年1～3月は2歳魚を主体に3歳魚以上の大型のゴマサバが混じります。2015年1～3月に漁獲の主体になるであろう2013年生まれ(明け2歳魚)の資源量指数が近年の平均を上回ると推定されていることに加え(平成26年度第2回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報より)、2012年生まれ(明け3歳魚)も同様に資源量指数が平均を上回る水準であることから2015年1～3月における2～3歳魚のゴマサバ漁獲量は前年を上回ると予想されます。また、例年4～6月に0～1歳魚のゴマサバも加入し漁獲の主体へと移行しますが、こちらについても2014年生まれの加入量水準が近年の平均を上回ると推定されています。

しかし2014年1～6月の漁獲量は3,621トンで、過去28年間では最高水準の漁獲量となっており、この水準までの漁獲量に達するかは不確実性が高いことから、総合して前年並み～上回ると予測しました。

## その他

### ■予測の根拠および参考資料

・平成26年度第1回太平洋いわし類・マアジ・さば類等長期漁海況予報(中央水産研究所及び関係都道府県:2014)

### ■用語解説

- ①被鱗体長 :体の前端から、尾柄の鱗で覆われている部分の後端までの直線距離。
- ②近隣海域 :ここでは、3県(宮崎県・愛媛県・高知県)の海域とし、高知県の漁獲量の前年比は宿毛湾における中型まき網によるものとししました。
- ③尾叉長 : 体の前端から、尾びれの湾入部内縁中央(くびれている部分)までの直線距離。

### ■問い合わせ先

この予報に関する問い合わせ先は、大分県農林水産研究指導センター水産研究部 栽培資源チームまで。

〒879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦194-6  
電話:0972-32-2155  
FAX:0972-32-2156